

探究力をつけるための授業や分科会 高校で「第19回私立大学附属・併設



総合的な学習の時間(Dignity)の研究授業



地歴・公民科と英語科の合科
(World Studies)の研究授業



各教科の研究授業や 姜尚中氏の講演を開催

教育研究集会は10月31日(土)、11月1日(日)の2日間、金城学院高等学校で行われ、全国から多くの先生や学校関係者の方々がいらっしゃいました。

今年の教育研究集会のテーマは「探究力を身につけた人間を育む～自立



姜尚中氏による記念講演

と共生をめざして」。初日は各教科ごとに、テーマに沿った研究授業が行われました。中学1年生のDignityの授業では水野志帆子先生が「相手に伝わりやすい言葉の使い方」について、グループリーダーの説明をもとに絵を描くワークショップ式の授業を展開。どうしたら相手に物事を正確に伝えられるかを考えながら、情報の伝え方の大切さなどを学びました。ほかにも高校2年生のWorld Studiesでは英語でロールプレイを行いながら英国の紅茶の歴史と文化を考える授業を実施。生徒たちの主体的な学びを導く授業内容に各校の先生方も関心を寄せられ、授業後には活発な質疑応答も行われました。

また榮光館では聖学院大学学長・東京大学名誉教授の姜尚中氏による記

念講演「心の力」が開催されました。海外の学生に比べて宗教や政治について多くを語らず、また“普通”であることを求める今の学生たちについて「宗教と政治に関心を持たないと真のグローバル化は実現できない」と示唆。また夏目漱石の小説「こころ」を題材に、「学校はもっと先生が生徒たちと真剣に向き合える時間を造り、自分を見直す必要がある」とメッセージを送りました。会場の先生方はみなさん真剣な表情で、姜氏の言葉にうなずいていました。



懇親会の様子

を実施 「中学・高等学校教育研究集会」を開催



分科会の様子



全国から大勢の方々が金城学院に集った

各テーマの分科会実施 生徒発表や演奏も

2日目は五つのテーマに分かれて分科会が行われました。「高大連携の実践例」では、金城学院大学学長補佐・国際情報学部国際情報学科の大橋陽教授と高校教務課長の田中武彦先生が高大接続連携授業の効果について



生徒発表の様子

Dignity発表生徒：
豊吉里菜・関 円穂・森部仁美
語学研修発表生徒：
犬飼友菜・原田莉奈・森部仁美・
大鹿綾子・小林 愛

発表。高校生のモチベーションアップや進学への意味づけにつながることを挙げつつ、高大連携の今後の改善点についても話しました。

また「本校の『探求力』を育む授業：Dignityの取り組み」ではカリキュラム研究部長の柳瀬公代先生がDignityを通して主体的に考える力や企画力、創造力が身につくことを説明。今後も教科を越えて教員と協働することが大切と話し、ほかの先生方もみな賛同されました。

研究集会の最後を飾ったのは生徒たちによる発表です。Dignityのプレゼンテーションでは高校2年生の森部仁美さんら三人が「メディアを作る～小さな声を伝えるために～」を発表しました。「この研究を通してメディアリテラシーの低さを知りました」と森部さんはいいます。



原田莉奈さん

また「メディアリテラシーの教育をきちんと行えば、よりよい情報化社会になると思います」とも話しました。



森部仁美さん

また語学研修旅行については生徒たちがアメリカ語学研修旅行やイートンカレッジサマースクールでの様子についてスライドを使いながら発表しました。その中の一人、高校2年生の原田さんは「夏休みからみんなで集まって準備を行いました」といいます。「緊張したけれど人前でプレゼンできるいい機会だったと思います」ともいいい、同じく発表を行った森部さんも「自分たちの体験を伝えることができよかった」と充実した発表ができたことを話しました。ほかにもパイオルガンやハーブアンサンブル、グリーククラブの演奏が行われ、会場のみなさんを魅了。盛況のうちに研究集会は終了しました。